

# 古川なおき 第162号 レポート

2024年2月1日



## 真の政治改革を

皆様お元気ですか？

最近、30数年ぶりに一冊の本を読み返しました。書名は「永田町下級武士たちの決起—政治改革に挑む」ユートピア政治研究会編著(講談社)。石破茂元幹事長らが当選一回生の時に書かれた本です。この本は共著者の一人、鈴木恒夫衆議院議員(当時)から直接いただいた思い出深い本です。文部科学大臣も務められた鈴木恒夫代議士は、会社員であった亡父の翠嵐高校時代の同級生で、政治とは無縁の家庭だった私に、信頼される政治はどうあるべきかを教えてくださいました。

私の学生時代は、リクルート事件などの疑獄事件があり、「お金のかかる政治」を改革しようという機運が盛り上がりました。1994年の政治改革関連四法の成立によって、「政治にカネがかかる」原因とされていた中選挙区制を変え、現在の小選挙区比例代表並立制が導入されました。政治資金規正法も旧来より一定の厳格化がなされました。

しかし問題はこの時、「政治とカネ」の構造的原因である派閥政治にメスが入らず、また政治資金の透明化も中途半端に終わってしまったことです。

今回の事件の温床である現在の「派閥」の実態は政策集団とは程遠く、「カネを集め、カネを分配し、内閣や党人事ポストを割り振る」利益集団であると指摘されてきました。菅義偉前総理も、昨年の月刊文藝春秋2月号の記事で、派閥政治を憂い「国民の負託を受けて当選してきた政治家が、理念や政策よりも派閥の意向を優先してしまう」ことを嘆かれました。そして「派閥政治と決別せよ」と呼びかけられました。刷新本部の会合でも「派閥解消をスタートラインとして進める必要がある」と明言されました。

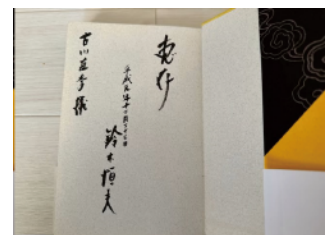
私も、一回生議員ながら、刷新本部の会合にて発言の機会をいただきました。派閥解消を念頭に、岸田総理や茂木幹事長に、今回の事件で世論の逆風に地域で苦しんでいる地方議員の仲間たちの想いも伝え、国民目線の政治改革を心から訴えました。

さまざまな経緯もあり政治刷新本部では、実質的に「派閥解消」となる措置が中間報告に盛り込まれることになりました(裏面詳細参照)。また同時に岸田派を皮切りに、二階派や安倍派も解散を決定し、他派閥にも急速に広がりつつあります。事実上派閥が解体されつつある今、一方の政治資金改革を今国会で進めるよう引き続き努力していきたいと考えています。

今年は露大統領選挙、米国大統領選挙と今後の世界の趨勢を決める重要な選挙が続きます。中国の覇権主義の中で、日本の外交安保も極めて困難なかじ取りを迫られます。重要なことは、「国内政治の安定なくして、日本の国益を守る外交政策を推進することはできない」という真理です。そして政治の安定のためには国民の皆様の信頼がなくてはならず、信頼回復の為に自民党の改革は避けては通れません。

政治倫理の確立を訴え「クリーン三木」と呼ばれた私の大学の先輩にあたる故三木武夫総理の座右の銘は「信なくば立たず」でした。戦時中は大政翼賛会に抗い、戦後政治の中では田中派などの大派閥に抗して、苛烈な政治闘争を生き抜いた昭和の大政治家であっても原点は国民の「信」でした。

改めて、二十代で政治家を志した原点を振り返り、「信なくば立たず」の言葉を心に刻み、真の政治改革と日本国の発展のために精進することを誓います。



衆議院議員

古川直季



自民党

# 自民党政治刷新本部・中間報告まとまる

自由民主党の政治刷新本部における中間とりまとめ（国民の信頼回復に向けて）が固まりました。この度の「派閥の闇金疑惑」を受けて、主に政治資金制度の厳格化と派閥の見直しに関する内容が話し合われました。

私は、刷新本部の全体会合に出席し「多くの地方議員もまず信頼回復を求めている」ことを伝え、「国民目線で、原点に立ち返り党が自ら改革すべきだ」と当日出席されていた岸田総理、麻生副総裁らに強く迫りました。

残念ながら派閥の全廃には踏み込まれておらず、今後の派閥のあり方については関心を持たれるところだと思います。また、政治資金規正法の具体的な改正点などについては、与野党で協議していくこととなりました。

以下、自民党政治刷新本部の中間とりまとめのポイントです。



## 中間とりまとめのポイントと古川なおきの評価

◎:とてもよい、○:そう思う、△:もう少しがんばりたい

| ＜派閥(政策集団)について＞               | 評価 |
|------------------------------|----|
| 政治資金パーティを全面禁止                | ◎  |
| 政治資金収支報告書の外部監査を義務付け          | ○  |
| 所属議員への手当支給を禁止(いわゆる氷代、餅代)     | ○  |
| 人事の働きかけや協議を禁止                | ◎  |
| 法令違反があれば、党が活動休止か解散を要求        | ○  |
| 今回の事件の関係者の政治責任を明確化           | ◎  |
| 派閥全廃は見送り                     | △  |
| ＜政治資金について＞                   |    |
| 政治資金規正法の改正に向け与野党で協議          | ◎  |
| 会計責任者の逮捕、起訴時に議員を処分できるよう党則を改正 | ◎  |
| 国会議員関係団体の収入は原則銀行振り込みに        | ○  |
| 収支報告書をオンラインで提出               | ◎  |

今回の中間報告は、国民の皆様からの強いご批判を背景に、「派閥政治の解体」と「政治資金改革」について、かなり踏み込んだ内容となりました。当初目指した「派閥全廃」とはなりませんでしたが、派閥が開催する政治資金パーティー等を禁じたこと、これまで慣習となっていた派閥からの人事要求を廃止したことで、派閥の力の源泉である「資金」と「人事」を封じることができました。事実上、今回は派閥の終焉になると感じています。

政治資金に関しては、会計責任者や秘書の「トカゲの尻尾切り」ができぬよう議員への連座制適用を目指します。また収支報告のオンライン化で透明性が高まると感じています。

この中間報告はスタートラインですが、構造的原因であった派閥政治に一定のけじめをつけることができ、政治資金に連座制と透明性を導入できました。自民党として再出発するにあたり、十分ではないですが一定の評価はできる内容になったと感じています。今後さらに国会論戦を通じて国民の皆様の信頼を回復できる政治改革に仕上げていきたいと思っています。

## 古川なおき活動の記録



## 古川なおきプロフィール

- ・1968年8月31日「野菜の日」生まれ
- ・希望ヶ丘高校、明治大学政治経済学部卒業、明治大学公共政策大学院修了
- ・1995年横浜銀行、議員秘書を経て、旭区より横浜市会議員26歳最年少当選（7期26年連続当選）
- ・自民党横浜市会議員団団長、政務調査会長、総務会長を歴任
- ・2021年衆議院議員総選挙神奈川6区（保土ヶ谷区・旭区）より92,405票で小選挙区当選
- ・自民党では無派閥で活動
- ・＜衆議院：常任委員会＞総務委員会 / 文部科学委員会
- ・＜衆議院：特別委員会＞政治倫理の確立及び公職選挙法改正に関する特別委員会
- ・自民党2027横浜国際園芸博覧会（花博）推進特命委員会 事務局長
- ・保土ヶ谷区スポーツ協会 顧問      ・旭区サッカー協会 顧問
- ・希望ヶ丘高校同窓会「桜蔭会」理事      ・2018年横浜マラソン完走（5時間8分）



木原防衛大臣と懇談

自由民主党  
神奈川県  
第六選挙区  
支部事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘199-1  
TEL:045-391-4000 FAX:045-366-9700  
E-mail: jm@furukawa2002.com